

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372701047		
法人名	株式会社白水ディエイチシー		
事業所名	グループホームつばめ		
所在地	熊本県阿蘇郡南阿蘇村吉田2043		
自己評価作成日	令和4年1月6日	評価結果市町村受理日	令和4年2月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1ユニットと小人数での施設運営であるが、スタッフの入れ替わりもなく、アットホームが継続してる。少人数であるがゆえに、すぐに全員での支援についての検討可能。個々の状況をよく観察でき、要介護5になっても、トイレでの排泄支援が継続できている。</p>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和4年1月6日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ここ数年職員の移動が殆どないホームでは、馴染みの職員によって「ひとつ屋根の下、笑顔のある生活」が展開されている。管理者は馴染みの関係だからこそ馴染み合いや一人ひとりの出来る事出来ない事の見極めが尊厳に繋がることを職員に伝え、自身も常に新たな取組を模索しながら共に業務にあたっている。個々の健康管理や可能な限り現状を維持するための支援について、検討や研修を重ね、家族への報告を行うことで安心や信頼に繋がっており、感謝の言葉が寄せられている。コロナ禍で思うような外出が出来ない時もホーム内での楽しみ事を工夫したり、開設時から取り組む手作り食や、法人の協力により手入れされた敷地内の散歩は間近に阿蘇の山々を望みながら楽しめる有意義な時間となっている。変わらぬ支援の継続に期待したい。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	笑顔の理念のもと、支援においても随時心がけてる。小人数の利用者・スタッフであるがゆえに、日々心掛ける。	開所時からひとつ屋根の下「笑顔のある生活」を理念に掲げ、少人数ならではのゆったりとした生活の中に「まだできる、まだやれる」をケア目標の一つとしている。入居者の出来る事を尊重し、むやみに手をかさず達成感に繋がるプロセスを大切にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	もともと、日常的な交流の機会が難しい状況もあったが、コロナ下も影響してなかなか難しい。園児との交流等すべてができない状況がある	この二年コロナ感染症の社会的状況を見ながら、運営推進会議を開催して、地域代表者と直接顔を合わせ、ホームの現状を発信しながら地域情報を運営に反映させている。地元の駐在所からも参加が得られており、防犯対策の意味からホームの状況を把握してもらうことも重要としている。	コロナ終息後には地元保育園との交流再開に向けコンタクトを取るなど、継続した取組が期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ下、活発な活動ができていない。コロナの終息状況等をふまえ、何とか運営推進会議等も開催できる機会には開催へ。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	R2年度は、コロナ下でも6回のうち2回は開催する事ができ、報告や意見交換をすることができた	運営推進会議の直接開催に向け努力しているが、中止する場合には資料を行政、地域包括、地域代表者、駐在所、家族など関係者へ送付してホームの現状を伝えている。会議では入居者の様子やコロナ禍における面会の状況、事故や身体拘束委員会の報告などをわかりやすく紹介し、自然災害などの地域との協力体制について質問があがっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナの注射の件等実施にあたっての連絡密へ。適宜、連絡してる。	運営推進会議には行政をはじめ地域包括から参加協力があり、それぞれの意見や提案がホーム運営に活かされており、包括からの情報が新規入所に繋がるなど連携が図られている。管理者は事故報告や外部評価の結果を持って直接役所を訪れ、質問などに応じてもらいながら関係継続に努力している。	外部評価を情報開示の一つとして家族へ結果を送付しており、運営推進会議では行政担当者からも評価内容について意見をもらうことも検討願いたい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月のミーティング時に、身体拘束委員会実施。つばめとしては、「不適切ケアをなくす」をスローガンに毎月検討会をしている	“身体拘束委員会”を毎月開催しており、職員は日頃から疑問に思った事柄を準備された用紙に記録し、委員会の検討事項としている。“不適切ケアをなくそう”をホームのスローガンに掲げ、委員会での検討事項には入居者が夜間起きて来られてたことにトイレだと考えられるが、本人の「違う！」の言葉に再び寝てもらった例などについて、その時どうすれば良かったかなど最良の対応について意見を出し合っている。	職員移動もなく馴染みの関係であるが故に、入居者への言葉使いや固定観念などに気を付ける必要があるとしている。今後も職員の気づきを課題として委員会で話し合う体制が継続される事を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の支援の中でも上記不適切ケアとともに、随時確認。内出血等は、特に敏感にいつからか？どうしてできたのか？等確認		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修参加後の報告していた。おりにふれて話している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に説明。他の施設の事やグループホームの在り方等説明。説明後契約書一式持って帰ってもらい、不明点等の再確認してもらおう。事前見学等は気軽に来社してもらってる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の請求書送付にて、状況報告。また必要時電話報告。何かありますか？と必ず確認	毎月入居者の近況を家族に報告しており、意見や要望は面会時や電話で直接聞くようにしている。入居者の要望は日々の関わりの中から引き出すようにしているが、具体的なものは出てこないようであり、生活をする中で入居者がトイレ用品を取り出しやすいように工夫したり、季節の行事を取り入れた食事や庭先での花見など出来る事で支援するようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングふくめ、きちんと意見を各自が述べていて、反映する状況にある。日常的に言いやすい環境にある。	職員は普段から業務改善やケアの方向性について意見を出し合い、何気ない会話を通して言いやすい雰囲気づくりを行っている。昨年10月からケア記録はアイパットを活用しており、わかりやすく取組みやすいとのことである。日々の気づきを記録し、全員で検討することでケア向上に繋がる体制作りが出来ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	小人数ながら、お互いさまで相手を気遣いながら、皆が努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在zoomでの講演等に限定されている。呼びかけしつつも、管理者参加が多い。情報は適宜伝達している。一部のスタッフで支援や業務部分で指導要すが、なかなか次に生かせない状況はある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現状は、コロナ下難しい。コロナへの対応等の情報が多くなるが、皆に伝達している。阿蘇地区の地域密着連絡会の世話人役2年目で、各施設のコロナ対応状況確認し、医療センター感染予防担当者への確認等の実施		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と面談。情報収集と挨拶。本人の状況から、入居時各自が対応について考慮。新規入居者にも面会し、病院と入居にあたっての本人への言い方等の検討実施		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	主に管理者が、確認し家族の意向を伝達。随時家族の意向を確認して、全スタッフで共有		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居に際してグループホームの状況等説明し理解してもらう。金銭面を気にされる家族も多い事から特別老人ホーム等の話もだして説明納得してもらってる		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	関係性が長くなると、固定観念も多くなるが、できる事等再度考える機会や考察の機会はもっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ下、直接会える機会が難しかったが、つばめとしては、勝手口サイドマスク着用して面会へ。12月になり対面での面会開始。状況は随時手紙報告へ		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ下、難しい	入居者は家族との面会を楽しみにされており、コロナの感染状況を見ながらその都度面会方法を検討し、来所の機会を作っている。昨年は開通した阿蘇大橋を車窓から眺めたり、嗜好品の購入に地域商店に出かけるなど入居者に馴染みの名所や地域資源を活用している。また、外出に代わるホーム活動を工夫し、毎年恒例の花見やソーメン流しなど馴染みの行事が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間を取り持ったりしている。(隣の方の洗濯物たたみを手伝われたり、心配されたりときにされる場面多々見られ、ともに生活していると感じられる		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	R2. 12に骨折入院(長期に及ぶ)家族は、最後までつばめに返したい気持ちあり、随時状況対応し相談に応じた		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	どうしたの?の声掛けで本人の言葉を聞く様にする。(本人の言葉を聞く事で思いをしる)	入居者は日中の大半をリビングで過ごされており、職員は傍に腰を下ろしながら普段の会話を通して思いを把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	新しく入居された方など、本人との話で出た事などは、家族にも確認して対応につなげる様にしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	慣れにてできてる事があたりまえになりつつあるのを、確認する事で再確認の機会とする。例: 入居3か月入浴→何も言わずともシャンプーとボディーソープの理解ができてる等		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の日々で必要とする事を解決しながら、ミーティングでも各個人の支援について話して。それが計画につながる	職員は日々の会話や普段の様子から入居者の思いをくみ取り、意見を出し合いプランにつなげている。計画作成担当者はプラン作成にあたってまずは入居者自身のニーズを明確にし、現在の状況に照らし、入浴一つにも新たな発見があるとして入居者の言動を見逃さず必要な目標を設定している。家族にはプラン内容をわかりやすく説明し了承を得るようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	R3. 10～iPadによる記録の導入。水分量や排泄等みやすくなった。すぐに前日や日にち指定で確認もしやすくなった		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他のサービス利用の情報等を提供。相談には随時応じてる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ下、活発な活動はできてない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に、認知症専門医をかかられたら、その情報も主治医に報告。膝痛で整形外科受診したらその報告をして次回から膝注射主治医が実施等主治医との連携をしてる	本人・家族の了承のもと、協力医による月1回の往診を支援し、他の医療機関への受診は家族の対応としている。職員は健康管理の徹底に努め、気になる点は日中のうちに早めに主治医への相談、指示を仰いでいる。歯科は必要時に往診可能な医院による治療が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	いつもと何がどう違うと感ずるのか！早め早めの対応へ。年に何回か低血糖を起こされる方の状況では、対応の仕方を随時確認しあってる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が長引き、転院した際にも付き添う。治療の説明やとらえ方で家族の意向も含め、一緒に医療機関に思い等を伝えたりして、家族の意向を伝達。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	365日各利用者を見てる事で、何かおかしい等の気づきが早くできてる。早め早めに家族に状況を説明し、終末期の在り方に関しては同意書をもらいつつ、臨機応変での対応をしてる。R3は、3月・11月・12月と施設での終末期を共有	入居時にホームでの重度化・看取り支援への取組について説明を行い、その時点での意向などを聞き取り承諾を得ている。また、特養施設についても説明を行い、相談事にはいつでも応じる事を伝え安心に繋げている。入居者の健康状態は食事や排泄などを含め、細やかに家族への報告を行い、この一年でも看取り支援が行われている。支援後は家族や職員と振り返りの機会を持っている。	継続した医療支援が必要でなければホームでの看取りを支援しており、管理者は入居者の変化に気づくことの重要性を伝えている。今後も入居者や家族の思いを組み取った日々のケアが継続されていくことを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ある方は、起床時低血圧や低血糖を起こしやすい(過去に何回もある)対応については、随時確認している。低体温からその日になくなった特殊事例もあるが、家族報告主治医報告。本人の状況を、スタッフがわかりやすい様に説明		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・台風・水害等自然災害については、熊本地震を経験してる事で、各自が身近に感じながら準備等をしてる。避難カード準備	災害訓練は火災が主であるが、避難誘導時は水害・台風も意識し行っている。今年度は10月に1回目を3月に2回目を予定している。保険証、薬手帳と個別情報書などは見やすいように作成し、持ち出し用品セットとして管理している。備蓄はホーム内で管理し、職員も周知している。	コロナ終息後は消防署をはじめ近隣や家族の協力を得た訓練の開催が期待される。また、地元警察との連携を継続し、防犯などについての講義も良いと思われる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常生活の中でも、随時気になる場合は、声掛けしてる。女性スタッフを奥さんと思われてる新規入居者への対応等心がけてる。	馴染みの職員による日々の関わりは入居者の安心に繋がっているが、言葉使いなど馴れ合いにならぬよう管理者は日々注意を伝えている。また、本人の出来る事出来ない事を見極める事は、尊厳にも繋がることから指導や共有の機会をもっている。身だしなみへの取組としてコロナ禍以前は訪問カットを支援していたが、現在は整髪用ハサミ(スキカル)を使用し、カット後の状態を写真に撮り、家族へ報告し、面会時に写真を見せている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	早々に声掛けせず、行動を見守りながら、ぎりぎりですぐしたの？と本人の思いが言葉に出るように見守る。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	好きな様にすごしてもらってる。加齢とともに動かない事もふえてきた。要介護5方は、リクライニングタイプの車いすへの変更等して、スタッフの声が聞こえたりした空間で過ごしてもらってる		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性スタッフは、きちんとできてるが、男性スタッフは得意でないながらもきにして支援してる様子あるが、いまだに気になる事見受けられる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	新規入居者が、歯がない状態。家族とも相談。きざみ食であるが、何が刻まなくても大丈夫か等細かく検討し見極め食事の提供へ。食べ方での皿の工夫等実施(スプーンですくいやすい等)テーブル配置工夫。コロナ下食事時の会話考慮	開設時より献立作成や食材購入、調理を職員が行い、行事食や希望メニューによる誕生会などを工夫し食事を楽しんでもらえるようにしている。また、テーブルの高さや皿の深さ、キザミ食など食べやすい状態を個々に応じて検討している。水分補給はお茶や飲むヨーグルト、スポーツ系ドリンクなど季節や好みに応じて工夫している。食事摂取量は好みの把握や異常の早期発見にも繋がることから、チェック表や気づきを意見交換している。	外食など難しい現状であり、流しソーメンやバーベキューなどイベント食を楽しんでおり、今後も楽しみとなる食事支援への工夫が期待される。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士がきちんとカロリー計算等しているわけではないが、糖尿の方等の採血では、いい状態を保持。また新規入居者が体重増加→主治医からは、健康になってきてる。もとにもどってきてると。高齢者にあつた食事の工夫		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のケア、その人に応じた支援をこころがけ確認実施。すぐに訪問歯科の依頼可能		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄支援検討は毎回実施し対応を検討。要介護5の方でも、今でもトイレでの排泄誘導実施してる。状況にてパット等の使い分けや誘導等の考察実施。	日中は声掛け・誘導によりトイレでの排泄を基本とし、個々に応じた排泄用品や方法などを検討し支援している。トイレは清潔に保たれ、気温に応じて暖房を使用している。また、トイレットペーパーも開設時から肌触りや使い勝手の良い紙質のものを準備している。トイレは2か所設けており、使い慣れたところを使用されているが、長時間の使用が続く場合は、他の入居者への影響も考慮して、ポータブルトイレへの変更も検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状態の確認も毎回検討へ。下剤マグミットの調整も施設でまかせられ、排便状態での服用をしてる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	男性利用者で入浴早め希望したりしたら、先に誘導したり、本人が希望すれば優先的に入浴支援	午前中から入浴の準備を行いその時々で午後からも支援している。現在、週4回、体調を見ながらゆっくりとした時間となるように努めており、寝たきりの状態になられても、マットを敷きかけ湯をしながら温まってもらうなど、一般的な浴槽で出来る入浴支援に取り組んでいる。菖蒲湯やたつぷりと柚子を浮かべた柚子風呂も継続し、入浴剤を使用する際、足元が見えず不安になる白濁のものは控えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	皆さんのパターンに合わせた支援へ。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の変更等ではその後の状態等を気にするように声掛けし、本人の状態観察を支持。 ワーファリン使用で毎回採血ある方で薬変更が毎回あった方等の状態観察も随時確認していた。本人に薬の日付書き等を実施してもらってる。確認は毎回怠らないように実施		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナ下外出の機会が難しい。高齢化や心身状態の低下に伴い支援もむずかしくなっているが、会話での笑顔を心がけている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ下難しい。敷地内での花見や、新阿蘇大橋の開通では、車からの見学としてできる範囲での外出を考えたりした	以前のような外出は難しく、敷地内の散歩や花見、車窓ドライブ(阿蘇大橋)等、できる事を支援している。また、外出支援に代わりホーム内で出来る楽しみ事や体を動かしてもらおう等工夫しており、家庭菜園では入居者も苗植えに取り組まれたようである。身体状況や希望に応じながら以前のような外出支援を入居者、職員も楽しみにしており、コロナの早い終息が待たれる。	法人の協力を得て敷地内は樹木の選定をはじめ、散歩を楽しめる環境にある。今後も雄大な阿蘇を眺めながら、外気に触れる機会を継続されることを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはお金の所持はされてない。必要時は支援		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は、いつでも電話できるようにしている。きちんと説明し、本人が話せる様に。適宜、手紙を出すけど何かある？と確認しいたい事は、家族へ		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	状況に応じ、ソファの位置・テーブルの位置等変更している。食事時の姿勢等が気になった方等では、長テーブルに変更したり、イスと高さの調整実施。	コロナ感染症への対策としてホーム内の衛生管理の徹底と保健所など専門機関による講演や指導(手洗い・消毒・テーブルの配置・仕切り版など)を受けながら取り組んでいる。しかし誕生会時などは、テーブルの配置も工夫し楽しめるようにしている。食堂を兼ねたりビングホールからは、歌や口腔体操など日常の声や音が聞こえ、穏やかな時間を過ごされていることが伝わってきた。馴染みの職員による入居者との関係性も居心地の良さに伝わっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者間の状況をみながら、随時スタッフ介入しトラブルにならないように早めに対応		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中は、おおむねリビングで過ごされている方が多いが、居室配置等は本人と相談やわかりやすい状況にしている	本人にとって安心できる居室となるよう、コロナ禍にあっても対策を施し、まずは家族を含め室内を見てもらい準備を進めてもらっている。必要な物品の持ち込みや個々の身体状況を見ながら自身で出し入れできる引き出しなどアドバイスを行っている。衣類については家族の了承のもと入れ替えや遠方の家族が送ってきたり、サイズをよく理解している担当職員が購入することもある。	平屋のホームであり家族は窓越しに居室内を見る事が出来る。遠方や以前のように訪問が出来ない家族に代わって、引き続き個々に応じた居室作りや安心に繋がるような発信に期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの方の動きの導線づくりに配慮		